

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 阿久根由美子	
日 時	平成26年5月29日(木曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 23 分
出席委員	石野 ○立花 井上 田中 吉田 日高		
執行機関出席者	< 政策推進室 > 桂部長 < 政策推進課 > 竹村課長、柏尾担当課長、加藤主幹		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員1名(山本)

会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

1 開議

〔石野委員長 開議〕

〔事務局 日程説明〕

〔政策推進室 入室〕

2 議題

○平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画について

1 0 : 0 2

< 政策推進室長 >

- ・H25年度は市民アンケート、自治会聞き取り調査、本特別委員会の提言を踏まえ地域公共交通計画を策定した。
- ・H26年度は計画に基づき公共の役割、福祉政策からのニーズを明らかにし、ターミナルと集落をつなぐことを基本に交通空白地域対策として新ルート検討など本特別委員会と情報を共有しつつ検討を行い地域公共交通協議会に諮っていきたいと考えている。

〔出席職員紹介〕

1 0 : 0 4

〔政策推進課担当課長 説明〕

1 0 : 3 2

〔質 疑〕

< 立花副委員長 >

1 日、1 便当たりの乗車人数が前年より減少している路線がある。分析は。

ふるさとバスの乗車は1 日平均 10 人未満である。経費削減対策として車両の小型化は検討しているのか。

< 政策推進課担当課長 >

毎月1週間バス停ごとに乗車、降車の状況を集約している。乗客が固定化した路線なので移動手段の変更や就学状況の変化によるものと思われる。

京阪京都交通と協議はしている。畑野線の朝の便は京阪の中型を借りて運行している。市で車両を用意してほしいと言われている。川東線1はさくら公園で試合があると小型車では対応できないことなど、小型車を利用すると時間帯により不都合なことがある。今年車両入れ替え(3台)のなかで検討したい。大型車も小型車も経費面では大差ない。

<立花副委員長>

P15、H27年度に試行運行するものは何か。東別院町はバス停までが遠いことが緊急の課題である。バス停までのデマンド交通の試行運行をH26年度に実施してはどうか。

北古世西川線整備事業の遅れがバス運行計画に影響する。一部区間の運行など見通しは。

JR馬堀駅から市立病院までが不便との意見がある。ピストン輸送などの考えはないのか。

<政策推進課担当課長>

道路整備状況をみながら調整を進めたい。一部運行も考えてはいる。試行を前提に調整を進める。早く進めたいが地元との調整も必要である。

南部地域と篠町は大きな課題である。1人も乗客のない便はないのでデマンド交通に変更しても同じ本数の運行となりデマンド交通にする必要性がなくなる。バス停までの距離をデマンド運行でと考えている。研究をしながら地元調整を進めたい。

公共交通ではなく病院の利便性の観点からも考える必要がある。

<立花副委員長>

亀岡駅から北古世西川線の一部を除き運行しようと考えているのか。

<政策推進課担当課長>

亀岡駅からの運行なら補助対象の可能性はある。府道王子並河線を一部運行することも検討したい。

<政策推進課長>

運行には運輸局や警察の許可が必要なうえ、地元の考えもあるので結果は分からない。

<井上委員>

ふるさとバスの府補助は今後も期待できるのか。

<政策推進課担当課長>

確約したものではないが、補助はあると思う。

<井上委員>

今後の取り組みで優先するものは何か。バスの増車に対する考えは。

<政策推進課担当課長>

(P14、取組み展開イメージ)不安、空白地域は早く取り組みたい。なかでも篠町での運行の新設、南部地域のデマンド交通に取り組む。関係機関協議、地元調整が整った時点で進めたい。H26年度のなかで優先順位をつけるのではなくそれぞれの取り組みを進めたい。バスは朝の時間帯の利用が多い。既存路線を変更すると生活に影響を与えることもあり、増車を念頭に考える。

<井上委員>

路線を廃止すればデマンド交通が運行できるのではないか。

< 政策推進課担当課長 >

定時定路線を廃止すれば利用客に影響を与える。経費面では予約運行も定時定路線運行も変わらない。

< 井上委員 >

運賃は消費税の変更もあり検討することになると思うが、いつの改正を考えているのか。

< 政策推進課担当課長 >

営業路線でないのでもあまり消費税には影響されない。地域公共交通会議で諮り協議する。運賃改定について具体的な計画はない。

< 井上委員 >

ふるさとバスとコミュニティバスの違いを理解していない市民がいる。市の経費負担とともに広報を。

< 日高委員 >

本年度取組む内容は何か。

< 政策推進課担当課長 >

今年度運行する場合には警察、運輸局の調整が年内に済んでいないといけない。地元での利用の気運を高め地元と作りあげたいと思っており、年度内の試行運行は難しい。ただし軽微な変更には取り組み、できるところから実施する。協議の必要のない犬甘野から神地までの運行は実施したい。待避所がないバス停の警察協議は特に時間を要する。

< 日高委員 >

H27 年 3 月に実施できるのはほとんどないということか。

< 政策推進課長 >

H26 年度から 3 カ年で評価まで行う予定。地元、地域あつての公共交通なので、十調整したい。地域による温度差もある。現時点で実施内容は言えない。

< 日高委員 >

デマンド交通の試行運行は H28 年度か。

< 政策推進課担当課長 >

バス交通の許可が必要である。協議は簡略化できず時間を要する。

〔 政策推進室 退室 〕

11 : 09

○委員会調査について

< 石野委員長 >

今後の調査の取り組みを協議する。公共計画に基づく検討等の状況を執行部から報告を受けることとデマンド交通の調査を行ってはどうか。

デマンド交通調査の事務局案はないか。

< 事務局 >

みよし市のデマンド交通の視察はどうか。バス停までのデマンド交通を実施されている。

< 立花副委員長 >

バス停までのデマンド運行は参考になる。特別委員会の提言、調査報告を 10 月か 11 月にはまとめる必要がある。

< 日高委員 >

バス停までのデマンド交通ならバス停で乗換え、更にガレリアで乗換えないと目的地に行けない状況になる。

< 石野委員長 >

みよし市の視察は決定とする。 — 全員了 —

3 その他

< 石野委員長 >

視察の日程は7月中旬で調整する。

散会 ~ 11 : 23